

支部報告

村山支部

支部長

齋藤 博行
(昭和45年農学科卒)

コロナ禍で支部総会が開催できぬ状況下で、支部活動報告の原稿締め切りが迫ってきていました。

幸運にも10月21日に農学部学生への「地域から学ぶ」という講義を行った機会があり、農学部長の村山秀樹氏と面会することができました。その場で11月1日の村山支部での話し合いに出席して頂けることになり、山形市南沼原コミニティセンターを開催場所にしました。

山形市に戻つてから、村山支部役員で今まで支部総会に参加した経験者を主体に携帯電話のショートメッセージで開催の案内と参加を要請しました。

急な開催と月曜日の午後1時半ということもあり、現職の会員からは参加ができないとの返事でした。

開催場所を山形市南沼原コミュニティセンターにしたのも、所長の中川信一さんが鶴窓会会

員(S52年卒)ですでの参加し

て頂けると思っていましたが、他の行事があつて参加が叶いませんでした。また、南沼原地区町内会連合会長の櫻井忠志さんも鶴窓会会員(S52年卒)ということで快く了承して頂きま

したが、次の用向しがあつて30分ほどの参加でした。

当日の話し合いは、最初に村山農学部長から、大学の現状について紹介がありました。コロナ禍で大学の会議は全てオンライン会議なので山形市に来たのは久しぶりであつたことや、昨年入学した1年生はオンライン授業であったことが影響したのか教養課程で25名もの留年者が生じてしまったとのことです。

学生の公務員志願者が多くなってきていて、自主的に公務員受験座で勉強したようだということもお聞きしました。近年、隣県大学で農業系学部の定員増加があつて、山形大学の今後の人学者減少を懸念していました。そのため鶴窓会会員の家族受験をお願いしたいとのことです。

次に自己紹介を兼ねて参加者の話がありました。栗野省三さん(S44年卒)には、最上川中流土地改良区理事、地域の本沢地区豊かな地域づくり協議会会長として子供たちと一緒に行動している環境保全活動を紹介して頂きました。阿部芳幸さん



役員会出席者 会議中はマスク着用でした

年度総会及び一連の行事を中止することとしました。(事務局記)

年度総会等について議論を交わし、その後軽く懇親を深めました。(この時点では、新潟県内において10人以下で間隔を空けての静かな会食はOKでした。)

会員意向調査は前年度総会中止後に参加会員から意見を聞くため、郵送またはメールで実施したものです。7割以上の方から調査結果を踏まえ会を盛り上げて行くためには、定期的に総会と同時に魅力ある講演会を開くとともに、最も重要な懇親会を充実させることとし、女性会員や現役世代会員の参加を促すため地道な会員同士の声掛けを続けることとしました。

その他、同窓生が新潟に戻つてこれる受け皿として本会が何ができるか(就業支援、就農支援、引受農業者等の窓口:○)、年会費は徴収しないことから会運営資金をどうするか等について意見交換し、継続して検討することとしました。

11月20日開催としていた総会等については、その後緊急の役員意見集約(電子メール、文書、電話による)を行ひ次のとおり決定しました。

直近のCOVID-19感染拡大状況、政府自治体の発令情報や要請、第6波発生の懸念、他団体の同規模懇親会実施状況等を基に、主催者としての社会的責任や出席会員の盛り上がりへの影響を考慮し、令和3

内会連合会長の櫻井忠志さんも鶴窓会会員(S52年卒)といふことで快く了承して頂きましたが、次の用向しがあつて30分ほどの参加でした。

員(S52年卒)ですでの参加して頂けると思っていましたが、他の行事があつて参加が叶いませんでした。また、南沼原地区町内会連合会長の櫻井忠志さんも鶴窓会会員(S52年卒)といふことで快く了承して頂きましたが、次の用向しがあつて30分ほどの参加でした。

当日の話し合いは、最初に村山農学部長から、大学の現状について紹介がありました。コロナ禍で大学の会議は全てオンライン会議なので山形市に来たのは久しぶりであつたことや、昨年入学した1年生はオンライン授業であったことが影響したのか教養課程で25名もの留年者が生じてしまったとのことです。

学生の公務員志願者が多くなってきていて、自主的に公務員受験座で勉強したようだということもお聞きしました。近年、隣県大学で農業系学部の定員増加があつて、山形大学の今後の人学者減少を懸念していました。そのため鶴窓会会員の家族受験をお願いしたいとのことです。

次に自己紹介を兼ねて参加者の話がありました。栗野省三さん(S44年卒)には、最上川中流土地改良区理事、地域の本沢地区豊かな地域づくり協議会会長として子供たちと一緒に行動している環境保全活動を紹介して頂きました。阿部芳幸さん

農学部の魅力がなくなってしまった。ぜひ取得できることで復活して頂きたい。

県内の農業科教員は、総合学農学部の魅力がなくなってしまった。ぜひ取得できることで復活して頂きたい。

農学部の能力、実力を使揮する教員を必要としているという。

山形大学そのものの体制の問題であり、文部科学省へ交渉を行うべきとの意見が出されました。

ほかに、欠席者



村山支部総会 令和3年11月1日(月)於:山形市南沼原コミュニティセンター

(S45年卒)は、鶴窓会支部懇親会で最後に歌われる「逍遙歌」を知らない学生、卒業生がいるので歌い継ぐ必要があるということです。同窓会名簿に賛助金を支払った方にCDをプレゼントしてもらいたいとの要望でした。

渡辺和弘さん(S54年卒)は県職員として病害虫の仕事をするなかで、後藤美千代先生、安田弘法先生と交流があったとのことで、退職後は山形昆虫同好会で楽しんでいるとのこと。

最後に、大内崇さん(S46卒)から、農業部学生が高等学校農業科の教員免許取得が出来なくなるのは

県職員として病害虫の仕事をするなかで、後藤美千代先生、安田弘法先生と交流があったとのことで、退職後は山形昆虫同好会で楽しんでいるとのこと。

卒)から、農業部学生が高等学校農業科の教員免許取得が出来ない問題だとの意見もありました。

今回の話し合いでは教員免許資格取得に関して極めて重要な問題だとする認識が高いようでした。山形県としても無関心ではありません。

多忙中に話し合いの場を設けた。意見もありました。

今回の話し合いでは教員免許資格取得に関して極めて重要な問題だとする認識が高いようでした。山形県としても無関心ではありません。

からの伝言として、高橋道雄さん(S46年卒)から、JA農産物直売センターの販売戦略について、お客様の目線は確実に高くなっていて、「新鮮、手ごろな値段」から「〇〇さんの、〇〇品種」というように、生産者個人のブランド化が見られ、信頼関係の構築が永続的な発展には必要であると提案しています。

今回の話し合いでは教員免許資格取得に関して極めて重要な問題だとする認識が高いようでした。山形県としても無関心ではありません。

かけて頂きました村山学部長に感謝申し上げますとともに、来年度の支部総会が開催されると、お客様の目線は確実に高くなって、お客の目線は確実に高くなっています。ときには、講演をお願いしたいもののです。

新潟県支部 副支部長 中俣昭雄
(昭和54年農業工学科卒)
役員会について

「令和2年度第2回
新潟県支部役員会について」

令和元年8月に発足したばかりの新潟県支部ですが、これから会の周知と参加会員の拡大、独自な活動等を考えていた時に新型コロナウイルスが蔓延し、昨年度は総会を中止せざるを得ませんでした。

支部規約では、総会は原則として毎年8月の第4週の土曜日に開催としていますが、未だコロナの状況が見えないながらワクチン接種が進むと考え、今年度は開催日を遅らせて11月20日に開くこととしました。

そこで7月に行つた役員会の模様について報告します。

役員会では、①会員意向調査結果を踏まえた今後の支部運営及び行事の持ち方②新たな活

ませんでした。

支部規約では、総会は原則として毎年8月の第4週の土曜日に開催としていますが、未だコロナの状況が見えないながらワクチン接種

